

迎えて5年

宮城県多賀城市たがじまにある「契りきな

かたみに袖をしぼりつつ 末の松山浪越

さじとは」(清原元輔)の句碑きまはらのもとすけに立ったこ

とがある。貞観地震じゅうがんを今に伝えているの

だが、必ずしもそのことを意図しなくて

も、時代が文化力を有すると歴史の証

明になつてしまう例だ。伝説は「見てきた

ような嘘」を説話せつわとしているものの、そ

の中に仕込まれた真意は千年の価値を

残している。やはりメッセージ力のあるも

のだ。▼先日、災害支援職員の派遣先、

宮城県山元町の齋藤町長が、復興のひ

とつの象徴ですとシャインマスカットを携

えて市役所を訪れてくれた。ここではポ

ランティアによるFM放送で日々の記

録を残している。「この災害を忘れては

ならない」とマスコミは言う。誰がこの災

害を風化させるというのだろうか。未だ

※17万8千人が故郷へ帰れずにいるの

に。▼元来「海」は文字の中に乳房を象

徴した母が存在するほど深くて広い愛

情の文字あまじであり、「産み海」は生命の起

源を語っている。その海を憎悪の対象と

してはいけない。3年前、いち早く海から

復興の声が聞こえた時、希望の光が差し

たのではないか。名取市の砂丘なとりに今春も

ハマボウフウの若芽が顔を出すことを祈

りつつ、丸5年を迎える。石狩市民は今

なお市役所の募金箱を空にすることは

ない。ありがたいことです。 (市長)

※平成28年1月14日現在

広告